**筋ジストロフィー医療研究会会誌「筋ジストロフィー医療研究」　投稿規程**

本編集委員会は、筋ジストロフィー医療研究会会則第３条第２号が定める事業として、機関誌「筋ジストロフィー医療研究（英名；Japanese journal of clinical myology）」の編集・発行に関する業務を所管し、筋ジストロフィー医療に関わる学術論文や意見を広く掲載、種々の情報を共有することにより、筋ジストロフィー医療の質の向上を図ることを目的とする。

（筋ジストロフィー医療研究会編集委員会規程より）

１．原稿の募集

(1) 本誌への投稿論文の責任著者（corresponding author）は、筋ジストロフィー医療研究会会員でなければならない。しかし、編集委員会が依頼する原稿に関しては、この限りではない。論文投稿時に責任著者名を記すこと。

(2) 投稿論文は、国内外の他雑誌に掲載されていない論文あるいは現在投稿中でない論文に限る。

(3) 投稿論文は、原則として和文とする。英文原稿の投稿を希望する場合には、本誌編集員会に問い合わせること。

(4) 本誌の採用論文は一般公開する。会員限定の論文は受け付けない。

(5) 投稿論文の採否は複数の査読者による審査結果をもとに編集委員会で決定する。本誌に一度不採択になった論文の投稿は受け付けない。

２．投稿の形式

(1) 投稿の形式は「総説」、「原著」、「症例報告」、「短報」、「Letters to the Editor」、「報告」として受け付ける。

(2) 総説：解説・講義などを含む

一定の視点・論点を持ったレビューを採用する

時代のトピックスや各種研究班の成果をわかりやすく解説する記事などを含む

医学・医療に関する高い識見、新しい考え方、あり方などに関する意見を含む

(3) 原著：オリジナルデータを含む質の高い学術論文を採用する

(4) 症例報告：一例報告、少数例の検討、有用な画像、有用な数値などを採用する

(5) 短報：オリジナルデータを含む学術論文で速報性のあるものを採用する

(6) Letters to the Editor：本誌に過去に掲載された論文に対する各種の意見（批判、討議など）を書簡の形式で書くもの（投稿年月日、拝啓―――敬具）

(7) 報告：筋ジストロフィー医療研究会からの報告、研究会・学会・研修会情報などの連絡

(8) その他：「シリーズ記事」、「討論会」など、編集委員会により企画されるもの

３．執筆要領

(1) 原稿の構成は、表紙 / 要旨 / 本文 / 引用文献 / 英文抄録 / 表（Table）/ 凡例（Legends）/ 図（Figure）　からなる（図Figureを除き、それぞれのセクションを新しい頁から開始し、頁番号を表紙から挿入すること）。

(2) 原稿はWordで作成し、行番号を表示する。（表示方法は「ページレイアウト」の「行番号」をクリックし、「連続番号」を指定する。）

用紙のサイズはA4縦で、余白は標準を設定する。

フォントについては、MS明朝、MSゴシック、Times、Times New Roman、Arialといった標準フォントを用いること。フォントのサイズは10.5～12ポイントとする。

1行の文字数40字、1頁の行数20行で設定すること。

(3) 表紙：表紙には、和文・英文で「表題」、「著者名」、「所属」、「キーワード（和・英それぞれ5個以内、「Letters to the Editor」・「報告」は不要）」、および「連絡先（電話、FAX番号、e-mailアドレス）」を記載する。

表題には略語を用いない。

(4) 要旨：和文の要旨を300字以内で記載する（Letters to the Editorは不要）。

論文の概要が具体的にわかるように記すこと。

(5) 本文：原則として、1)前文、2)対象・方法、3)結果・成績、4)考察、から構成される。

症例報告の場合は、「症例：」「主訴：」「既往歴：」「家族歴：」「現病歴：」の順に記述する。

(6) 英文抄録：「総説」・「原著」には英文抄録を付記すること。

症例報告、短報の場合は、必須ではないが、希望する際には下記制限に従うこと。

(7) 下記に示す制限を遵守して原稿を作成すること。

　　＜原稿作成に関する制限＞

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 総説 | 原著 | 症例報告 | 短報 | Letters to the Editor |
| 著者人数 | 10名以内 | 10名以内 | 6名以内 | 6名以内 | 3名以内 |
| 要旨（300字以内）　と　本文の合計文字数 | 7,000字以内 | 7,000字以内 | 5,000字以内 | 3,000字以内 | 要旨なし/1,500字以内 |
| 英文抄録単語数 | 300単語以内 | 300単語以内 | （300単語以内） | （200単語以内） | なし |
| Figure/Tableの数 | 8個以内 | 8個以内 | 6個以内 | 2個以内 | 1個以内 |
| 文献数 | 30編以上可 | 30編以内 | 30編以内 | 10編以内 | 5編以内（1編は対象となる掲載論文） |

(8) 引用文献：引用文献は本文に引用されているもののみをあげ、本文の引用順に文献番号を引用文の右肩に付記、論文の最後に一括する。

引用文献の書き方はバンクーバースタイルに準じる。

著者氏名・編者氏名は、最初の3名を書き、残りは「ほか（et al）」とする。

抄録の引用は表題の最後に（会）、欧文発表の場合は（abstr）とする。

　　＜引用文献の記載項目と記載例＞

|  |  |
| --- | --- |
|   | 記載項目それぞれの間に半角スペースを入れるが、雑誌の｢年;巻：頁-頁．｣の間にはスペースを入れない） |
| 雑誌 | 著者名．表題．雑誌名　年;巻：頁-頁．早期公開は，著者名．表題．雑誌名Advance Publication,　年;doi． |
| 和文例：高田博仁, 小山慶信, 今 清覚．筋強直性ジストロフィーtype 1における耐糖能障害．臨床神経学 2012;52:1259-1260． |
| 英文例：Takada H, Ravnborg M. Magnetically evoked motor potentials in demyelonating and axonal polyneuropathy: a comparative study. Eur J of Neurol 2000;7:63-69. |
| 書籍 | 著者名．表題．編者名．書名．版数，発行都市名：出版社名; 年．頁． |
| 和文例：高田博仁, 馬場正之．磁気刺激によるニューロパチーの診断．園生雅弘, 馬場正之編．神経筋電気診断の実際．東京：星和書店；2004．p．61-67． |
| 英文例：Takada H. Lipid Metabolism in Myotonic Dystrophy. In: Myotonic Dystrophy. Disease Mechanism, Current Management and Therapeutic Development. Takahashi M, Matsumura T ed. Springer; 2018. p. 161-170. |
| ガイドライン | 編集．ガイドライン名．版数，発行都市名：出版社名; 年．頁． |
| 筋強直性ジストロフィー診療ガイドライン編集委員会編．筋強直性ジストロフィー診療ガイドライン2020．東京：南江堂; 2020. p. 93-101． |
| 研究報告 | **著**者名．表題．編者名，研究班名，報告書名．年．頁． |
| 高田博仁，大平香織，赤坂麻美．青森県におけるスモン患者と行政の災害対策に関する現状．厚生労働行政推進調査事業費補助金 難治性疾患政策研究事業，スモンに関する調査研究班，令和元年度総括・分担研究報告書．2020. p. 83-88. |
| Webサイト | サイト名［Internet］．発表機関所在地：機関名；発表年月日［cited アクセス年月日］．Available from：サイトURL.（発表年月日は分かる範囲でよい） |
| 難病情報センター．筋ジストロフィー（指定難病113）［Internet］．東京：公益財団法人 難病医学研究財団/難病情報センター；2021 Sep. ［cited 2021 Sep 13］. Available from: https://www.nanbyou.or.jp/entry/4522. Japanese． |

(9) 日本語および外国語の表記は、原則として下記に準じる。

①常用漢字、現代かなづかいを用いる。必要上、これらにない語を用いるときはルビを振る。

②用語：日本医学会制定の用語を用いる。必要上、これらにない語を用いるときはルビを振る。

③外国語：日本語化している用語は、原則として日本語を用いる。

例；日本語として定着しているものはカタカナ表記する（myopathy→ミオパチーなど）

　　　外国語表現と日本語表現の両者が考えられ、日本語が定着している場合には日本語

を用いる（dysarthria→構音障害など）

④人名、地名、機器商品名などは、原語（アルファベット）で表記する。」

　固有名詞、ドイツ語名詞の頭文字は大文字とする。

　原語表記を必要とする一般語彙は小文字を用いる（ただし文頭の頭文字は大文字とする）。

⑤薬品名：薬品名は一般名を用いる。

　商品名が必要であれば、一般名の後に（○○○Ⓡ）と併記する。

　例；ポビドンヨード（イソジンガーグルⓇ）

⑥数字：アラビア数字を用いる。

　算用単位符号；m, cm, cm2, g/dl, %,℃ など

　放射性同位元素；60Co など

⑦動物，植物名など：人も含めて動物種、日本語化外来語はカタカナ表記、それ以外はひらがな表記とする。ただし、特定の動物や植物を示す場合は、学名を用いること。

例；ネズミ、ブタ など

⑧略語：初出時にフルスペルと略語を併記し、以後、略語を使用すること。

(10) 個人が特定される可能性のある身体写真を使用する場合には、著者が投稿に関して患者若しくは適切な代諾者（配偶者，親，子，後見人など）に説明、実際に掲載される画像・動画を確認してもらい、投稿の同意を得ること。

個人が特定される可能性のある写真として、顔写真・頭部のほぼ全体が入るものを該当、身体の一部や MRI 画像等は非該当とする。

(11)図表の説明文：図と表の番号は「図1. 図2. 表1. 表2.」と表記する。

図および写真は、番号と図題名を表記する。

４．倫理

倫理審査に関して記述すること。

本誌に掲載する論文は、人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（2021年6月30日以前は、ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針および人を対象とする医学系研究に関する倫理指針として施行）、遺伝子治療臨床研究に関する指針、ヒト幹細胞を用いる臨床研究に関する指針などの最新版および個人情報保護法などを遵守し、また、動物実験においては、動物福祉の精神に基づき倫理的なものでなければならない。上記倫理指針が適用されたと考えられる論文には、倫理委員会の承認を得たことを明記すること。

５．利益相反

本誌に掲載する論文では、利害関係が想定される企業などとの関わり（利益相反）について、透明性が確保され、適正に管理されなければならない。このため、論文には、利益相反状況を記載しなければならない。利益相反がない場合でも、論文本文末尾に著者全員の利益相反がないことを記すこと。

６．著作権（copyright）

(1) 本誌に掲載された全ての論文の著作権は、筋ジストロフィー医療研究会に帰属する。投稿にあたっては、論文の採択が決まった際に、著作権譲渡に同意する旨の書類に、著者全員の署名が必要である。誓約書を使用し送付する。

(2) 本誌掲載記事を他の紙面・Webサイトに転載・複写するときは、編集委員会の許可を得ること。本誌転載許可願を使用して、下記論文投稿先まで申請すること。

(3) 他紙や書籍に掲載されている資料（図表）を転載使用する場合は、必ず転載許諾に関する手続きを経てから著作権所有者の使用許可書のコピーを添付して投稿すること。また、出典を明記すること。

７．付則

(1) 原稿の送り先：

原稿データおよび投稿添付用紙をe-mail（添付）にて下記アドレス宛て送信すること。

図や写真に関しては、解像度を300dpiとして、TIF, JPEGなどに変換して送付すること。e-mailにて送付できない重さの原稿（資料）は、原則として分割送付とする。

分割でも送信できない場合は、保存期間が設定されている「宅ふぁいる便」や「ギガファイル便」などを利用すること。

なお、筋ジストロフィー医療研究会編集委員会から7営業日以内に受領の連絡がない場合には、筆頭著者より投稿状況につき確認すること。

e-mail： 410-pmdr@mail.hosp.go.jp

（大阪刀根山医療センター内　筋ジストロフィー医療研究会　事務局　編集委員会）

(2) 論文投稿時に「投稿添付」の署名済みPDFを、論文採択決定時に「誓約書」の署名済みPDFを、各々原稿投稿先にe-mailにより送付すること。

尚、他紙や書籍からの図表等を転載使用する場合は、論文投稿時に、転載許諾に関する手続きを経てから著作権所有者の使用許可書の写しをPDFで送付すること。

(3) 校正：著者校正は、原則として初稿のみとする。印刷ミスなどの訂正を主とし、字句の加筆、削除、変更については編集委員会に諮らず原文を修正することはできない。

(4) 掲載料：投稿規定範囲内のものは掲載無料とする。ただし、規定以外のもので編集委員会にて掲載を認めたものは、超過料金を徴収する。

(5) 二重投稿と判断された場合は、論文の取り消し、投稿禁止などの対象とする。

附則：この規程は、2021年10月25日から施行する。

投稿規程は適宜改定されるので、本会ホームページ掲載の最新版投稿規程に従うこと。

附則：この会則は、2022年1月4日から一部改正する。

附則：この会則は、2023年1月4日から一部改正する。